

令和7年3月24日

世田谷区医療的ケア連絡協議会 事務局

令和6年度 医療的ケアを必要とする障害児（者）への支援について

医療的ケアを必要とする障害児（者）への支援の取組みについて、下記のとおり報告します。

1 世田谷区医療的ケア相談支援センターHi・na・taの運営（障害福祉部障害保健福祉課）

Hi・na・taは、相談者の自宅や病院等を訪問するアウトリーチ手法による相談等も行いながらボランティアの協力を得て、保護者がゆっくりほっとできる場を目指す。

2 通所施設への助成（障害福祉部障害保健福祉課・障害者地域生活課）

令和元年度より、医療的ケア児を受け入れる区内の障害児通所施設に、令和3年度より、医療的ケア者を受け入れる区内の障害者通所施設に対し、施設の運営費を補助する事業を開始し、施設運営の安定化と受入れ施設の拡大を図る。

（都の重症心身障害児（者）通所運営費補助を受けている事業は、区の補助対象から除く）

年度	補助事業所数	内訳
令和6年度	9箇所	重心児通所施設 5箇所 (Ohana kids station、こどもデイういず、メディキッズ梅が丘、 Casa di tutti みんなのおうち、カンガルー療育支援室) 障害児通所施設（重心児以外） 4箇所 (プレイ&リズム希望丘、アプリ桜丘、障害児保育園へレン経堂、愛育学 園すみれ)
	3箇所	障害者通所施設 3箇所 (友愛デイサービスセンター、イタル成城、ケアセンターふらっと)

3 医療的ケアに携わる人材育成研修等（障害福祉部障害保健福祉課）

(1) 医療的ケア児への在宅医療を支える訪問看護研修

各訪問看護ステーションで実施可能な医療ケアを拡大していくため、平成30年度から世田谷区福祉人材育成・研修センターの専門性向上事業の一環として開始した。

年度	実施回数	参加人数
令和6年度	2回	延71名視聴

(2) 小児訪問理学療法士研修

医療的ケア児を含め、世田谷区のこどもたちが必要なりハビリテーションを受けることができるよう、小児の発達、成長と生活の視点を持って訪問理学療法を行える人材、また人材養成の中心となる人材を養成するため、成育医療研究センターとの共催研修実施とし、令和3年度より区主催にて実施。

年度	実施回数	参加人数
令和6年度	2回	延べ19名参加

(3) 看護師連絡会

区内障害児通所支援事業所や訪問看護ステーションで勤務している看護師等が集まり、事業所での医療的ケア児への対応や災害時の対応などについて話しあったり、日頃の業務の悩み等を共有し、横のつながりを作ることで、支援の向上を図る。

年度	実施回数	参加人数
令和6年度	1回	13名参加

(4) 介護職員等の喀痰吸引研修補助（医療的ケア児喀痰吸引等研修費補助）

障害児者施設の介護職員等が、民間の教育・研修機関でたんの吸引等のための研修を受講した場合に研修費を補助する制度を令和2年度より実施している。

4 医療的ケア講演会（障害福祉部障害保健福祉課）

	日時	参加人数	講演内容
令和6年度	—	—	講演会の目的や参加者の見直しを予定

5 「世田谷区医療的ケア児の笑顔を支える基金」を活用した、医療的ケア児等を育てる世帯への支援事業の実施

(障害福祉部障害保健福祉課)

世田谷区医療的ケア児の笑顔を支える基金の創設に伴い、令和2年度末までに集まった寄附金は基金へ統合し、令和3年度より基金より下記事業に対する補助を行う。

世田谷区医療的ケア児の笑顔を支える基金

寄附開始 令和3年4月1日

⇒寄附額 令和6年12月末までの寄附額（累計） 2,731件 104,511,959円

年度	件数	総額	備考
元	138	9,027,000	医療的ケア児ときょうだいにキャンプを贈ろう！
2	42	2,103,000	医療的ケア児ときょうだいにキャンプを贈ろう！
	149	5,350,676	医療的ケア児のための災害時の”つながり”をつくりたい
3	240	12,793,870	医療的ケア児の笑顔を支える基金
	1	4,777,500	医療的ケア児の笑顔を支える基金（地域保健福祉等推進基金からの積替え※遺贈）
4	503	18,116,963	医療的ケア児の笑顔を支える基金
5	815	27,335,515	医療的ケア児の笑顔を支える基金
6	843	25,007,435	医療的ケア児の笑顔を支える基金

(1) 募集事業

- ①事業名 医療的ケア児ときょうだいにキャンプを贈ろう！（上限1事業100万円）
- ②事業名 医療的ケア児のための災害時の“つながり”をつくりたい（上限1事業80万円）
- ③医療的ケア児等を対象とする支援事業を新たに始める事業者支援（上限1事業100万円）

(2) 事業実施実績

令和6年度	<p>人工呼吸器等を使用している医療的ケア児へのポータブル電源等の配布を2月末までに実施（今年度から年2回申請に変更）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布数22件（ポータブル電源+小型ソーラーパネルのセット）、1件（インバーター装置） <p>※医療的ケア児の笑顔を支える基金の活用以外に、18歳以上の医療的ケア者を対象としたポータブル電源等の配付も実施。</p> <p>なお、令和7年6月に使用状況アンケート実施予定</p>
	<p>公益財団法人 ハーモニイセンター</p> <p>医療的ケア児とその家族のためのポニー乗馬・ふれあいイベント （会場：国立研究開発法人 国立成育医療研究センター中庭や小貝川ポニー牧場）</p>
	<p>特定非営利活動法人 親子はねやすめ</p> <p>医療的ケア児のきょうだいを対象に「ゆきあそびにいこう」を実施 （会場：新潟県 ムイカスノーリゾート）</p>

6 区立保育園での医療的ケア児の受け入れ（子ども・若者部保育課）

①令和6年度現在の受入れ園

松沢保育園 豪徳寺保育園、希望丘保育園 世田谷保育園 等々力中央保育園

②医療的ケア児受入枠

各園1名

③対象 医療的ケアが必要で、かつ集団保育が可能な子（1歳児クラス以上の子）

7 居宅訪問型保育事業（子ども・若者部保育課）

保護者が就労などのため、保育を必要とする医療的ケアが必要な乳幼児に対し、保育を行う事業者へ運営費を給付する。日中は児童発達支援施設（重症心身障害児施設）と連携して、長時間の預かりを行う。

<実施事業>

- ・障害児訪問保育アニー（連携施設：障害児保育園ヘレン経堂）利用定員13名
- ・ほわわびじっと1（連携施設：ほわわ花見堂）利用定員1名

8 区立学校での医療的ケア児への支援〔世田谷区教育振興基本計画〕

（教育総合センター支援教育課、乳幼児教育・保育支援課、子ども・若者部児童課）

平成30年度：区立学校への看護師の試行的配置を実施（令和2年度より本格実施）。

令和4年度：障害福祉部が所管する医療的ケア連絡協議会の小委員会として「医療的ケア児の区立学校での円滑な受け入れに関する作業部会」を設置。

令和5年度：医療的ケア児の家族が所属する団体、区立小・中学校、区立幼稚園、学校医療的ケア看護師、世田谷区医療的ケア連絡協議会、関係団体等から意見をいただき、令和6年3月に「学校等における医療的ケア実施ガイドライン」を策定。

令和6年度：宿泊行事において夜間の医療的ケアの実施を保護者に依頼することから、その負担軽減に取り組むとともに、電気を使用する人工呼吸器や喀痰吸引器等を使用する医療的ケア児がいる学校に非常用電源を配備した。

令和5年度配付分 ポータブル電源等の使用に関するアンケート(集計結果)

ポータブル電源等を配付したご家庭 69 件のうち 28 件回答あり。 回答率40. 6%

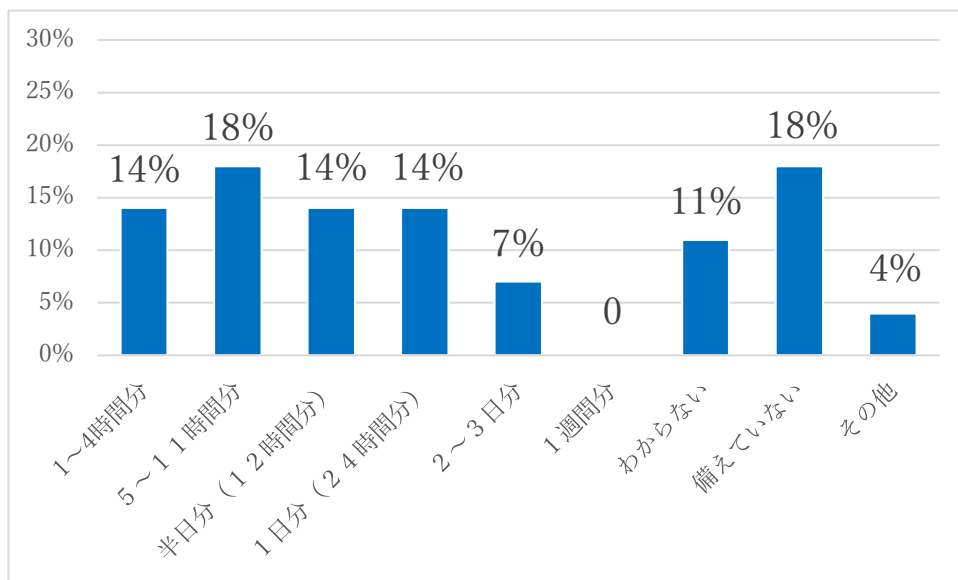
アンケート実施期間: 令和6年7月1日から7月31日(電子申請による回答)

※令和5年度から医療的ケア児だけでなく、医療的ケア者も配布対象としている。

<ポータブル電源等の使用状況について>

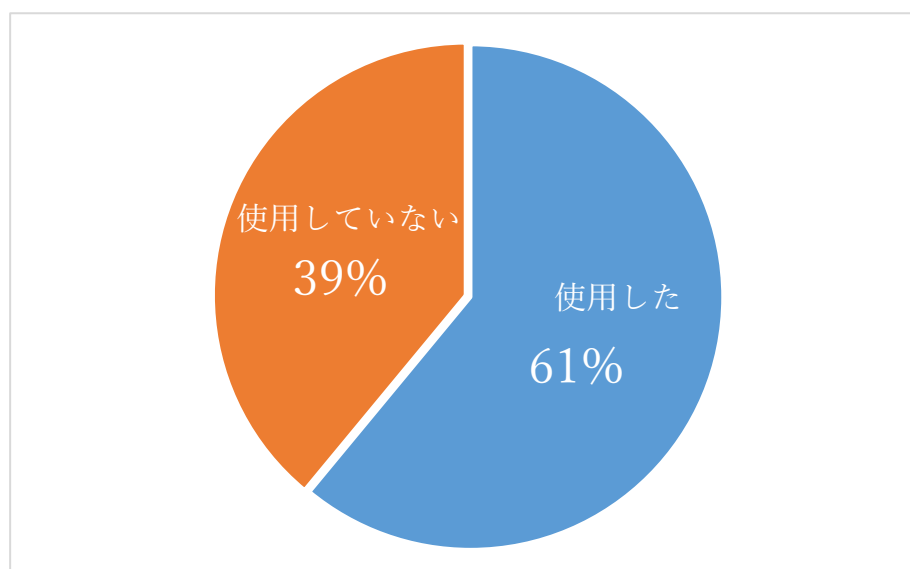
Q1 医療機器の電源はどのくらい備えていますか。選択肢のうち、最も近いものを一つ選択してください。

※令和5年12月に配付したポータブル電源等を含まずにお答えください。

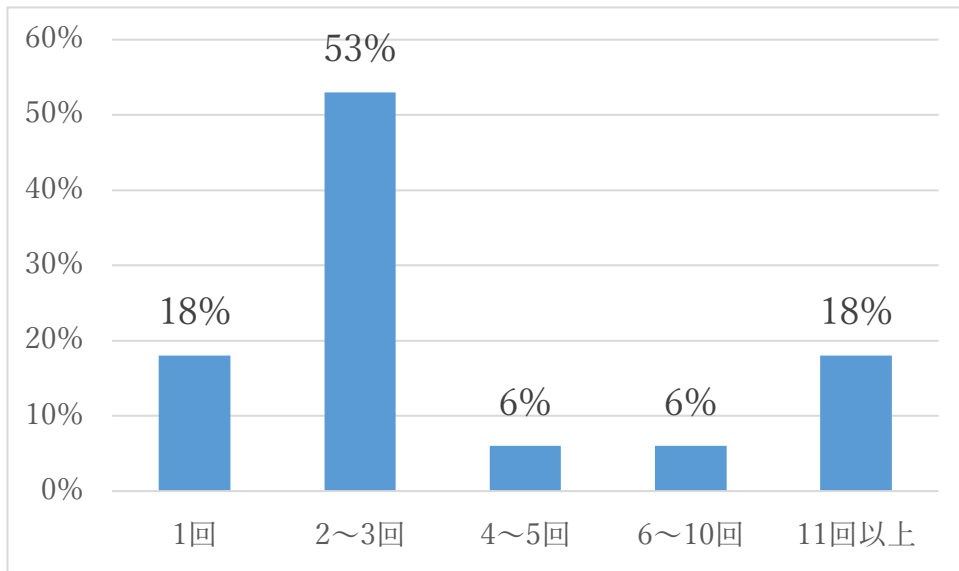


Q2 令和5年12月に配付したポータブル電源等を使用しましたか。

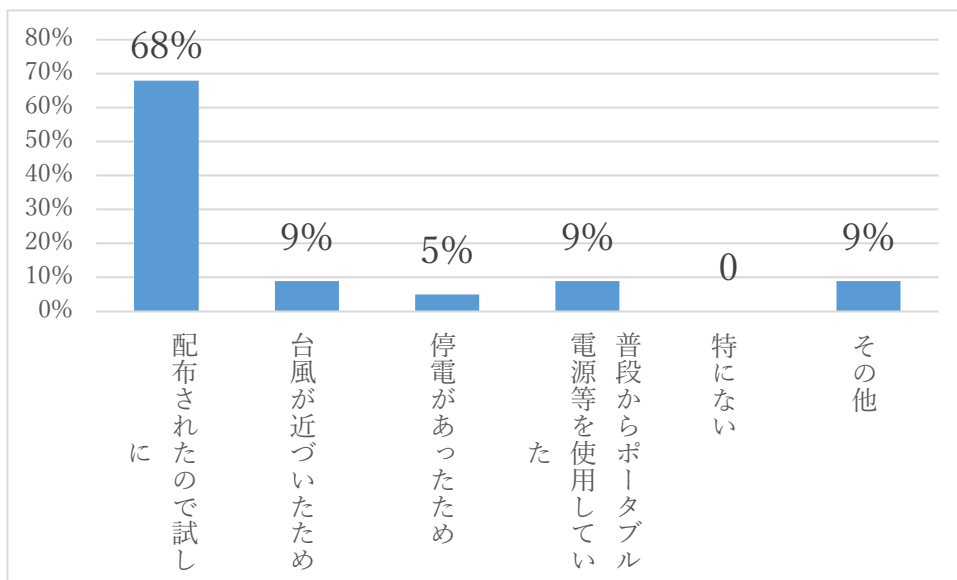
※1(使用した)を選択した方はQ3へ、2(使用していない)を選択した方はQ7へ進んでください。(R4:使用した 56% ↑5%)



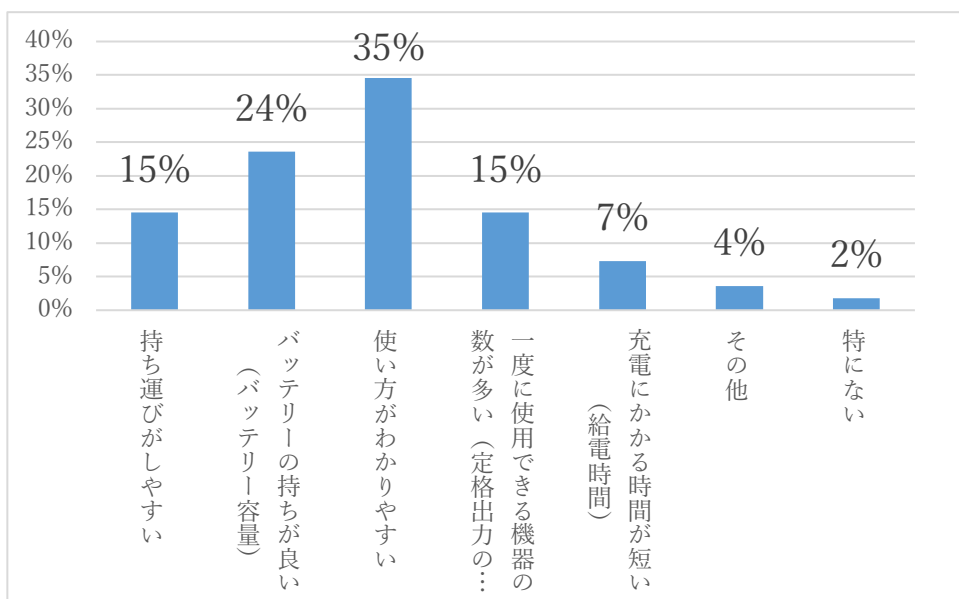
Q3 【使用した方へ】令和5年12月から令和6年6月までの間に何回ほど使用しましたか。



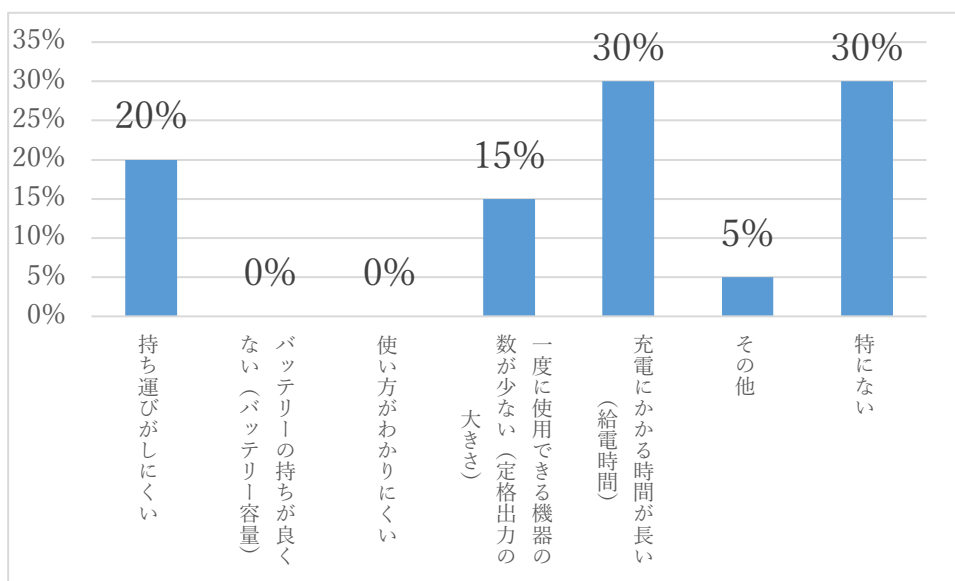
Q4 【使用した方へ】使用したきっかけを教えてください。（複数回答）



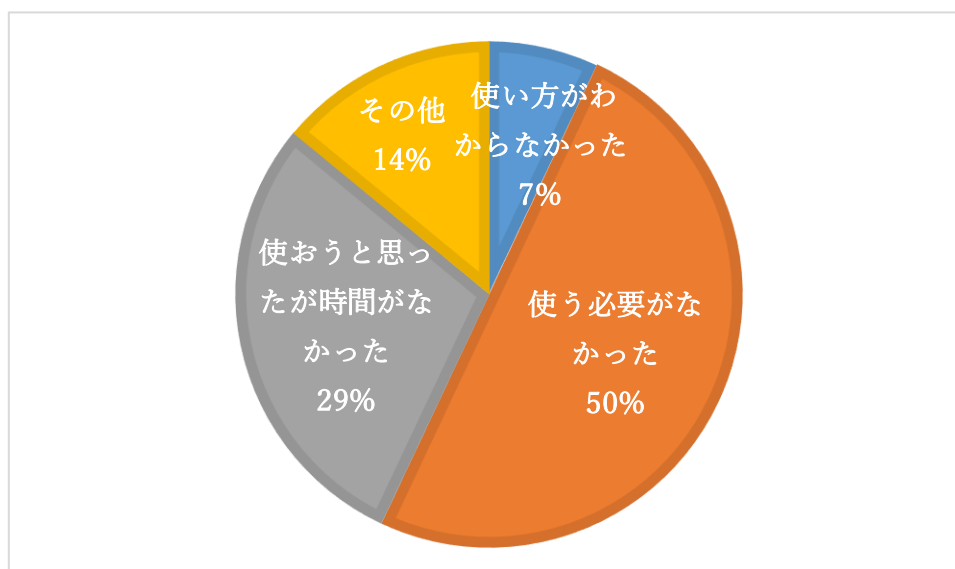
Q5 【使用した方へ】使用してみて良かった点を教えてください。（複数回答）



Q6 【使用した方へ】使用してみて困った点、良くなかった点を教えてください。（複数回答）
※回答後はQ8へ進んでください。



Q7 【使用していない方へ】使用しなかった理由はどのようなものでしょうか。（複数回答）



Q8 【共通】どのような機会があれば、ポータブル電源等を活用してみようと思いますか。あるいは、電源等活用のためにどのようなイベント等があると良いと思いますか。
例) 地域での避難訓練、使い方講習会、電源を持ち込んでキャンプなど

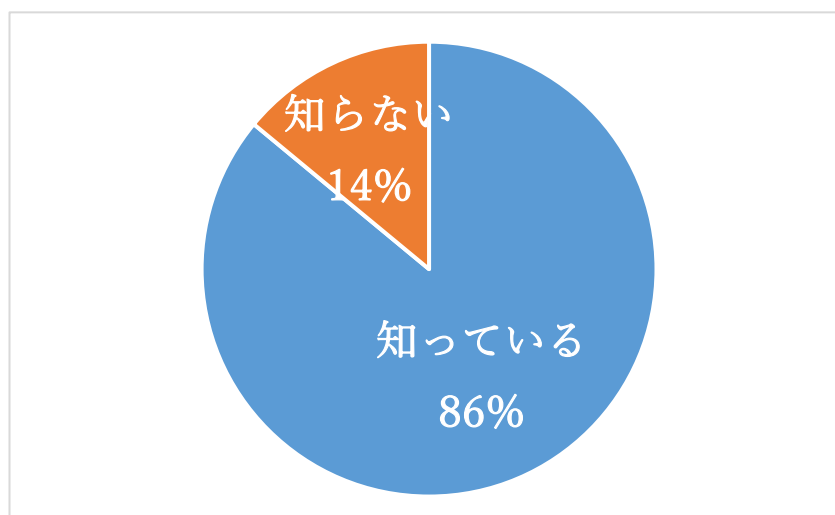
・避難訓練（複数回答あり）
・キャンプ（複数回答あり）
・普段から電気代の節約のため使用している
・台風など自然災害の時、車で長距離移動の時など、電源が確保できない場所で使う。
・充電のタイミングや家での置き場所など、上手に使用している方の実例を教えてください。
・医療機器のそれぞれの消費電力を知るために、機器を繋いで、確かめてみる。 そして、それらから、1つのバッテリーでどのくらいもつか、計算。不足していると思って、追加購入

した。
・今後、停電時に使用したい。
・遠出の外出時に使用したい。
・具体的に何をしたら便利か、災害時に困らないか、医療機器の電力の計算方法など、危機意識を持てるような情報があれば良いと思う。
・災害時の想像ができるように、これまで災害にあった事のある医療的ケア児者の家族の話しとか聞く機会があると良い。行けない人もたくさんいるので、紙面で配布などでも良いと思う。
・外泊や外出の際、非常用に車にのせて備えるなどしたい。今年、車にのっている時に、雪で大渋滞が発生して車内で呼吸器の外部バッテリーが足りなくなり、焦りましたが、初めて新車の AC 電源を活用しました。本当に助かりました。ポータブル電源を車内にのせておけば、さらに安心できるなと思いました。
・自分達の住んでいる地域にどの程度医療的ケアを必要としている方がいるのか、実際に災害があった場合、助け合うことができるのか、全くわからないことが心配です。 ポータブル電源を配布していただいた事をきっかけに、地域での使い方講習、災害時の在宅避難や過ごし方についての意見交換、などのイベント的なものがあればいいのかな、と感じました。
・日常使い用として所有しているわけではない為、なかなか使う機会がないが、定期点検はしっかり行って、放電したまま置いておくことがないように、管理していきたい。
・実際の停電時には必ず使います。定期的に充電した方がよいので、春と秋に試用します。避難訓練があるとイメージができて、とても良いと思います。
・基本的に災害時の備えとして利用するものと考えています。積極的に活用することは考えていませんが、キャンプなどの際はあったらいいかもしれません。
・災害等を原因とする停電の際に使うつもりでおります。持っているだけで安心なので、たいへんありがたいと思います。
・外出時、基本的に車椅子に小さなポータブル電源を積んでいるので、平常時はそれで間に合っている。災害時、停電の時にはパワーがあるあの大きな電源を使うつもり。活用としてはキャンプ？(本人障害重くて行けないかな)妥当なところで地域の防災イベントや訓練、ですかね。
・電源を使った医ケア家庭の事例をイベントやオンラインで紹介してほしいです。

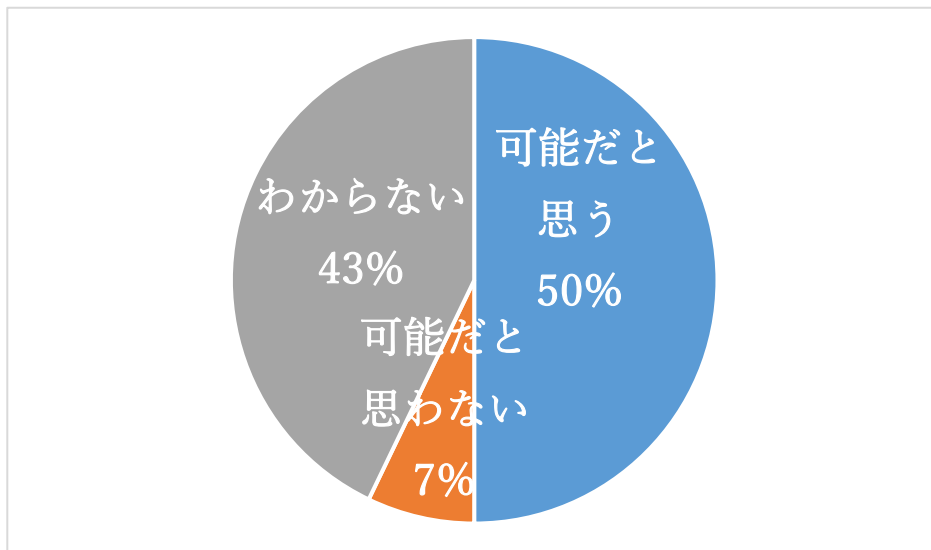
<災害対策について>

Q9 自宅に損害がない場合の「在宅避難」の考え方をご存じですか。

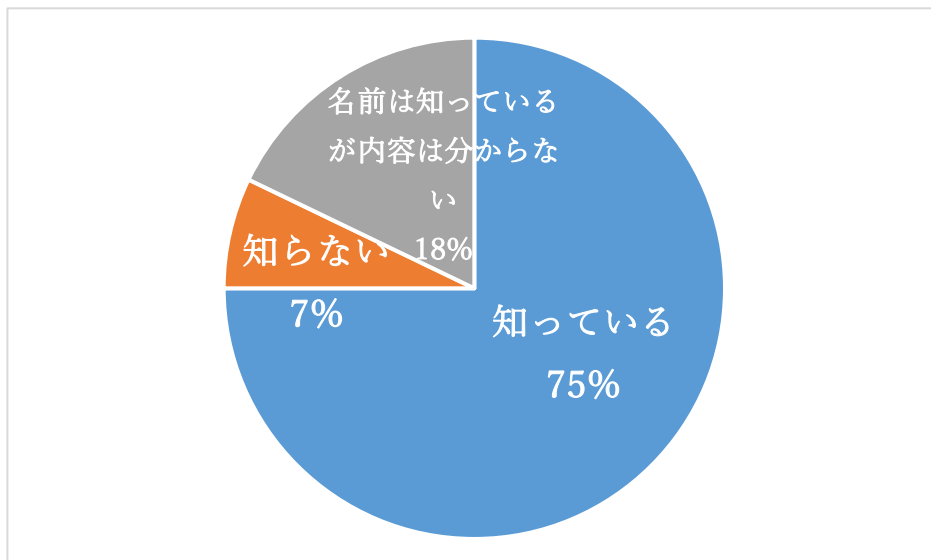
(R4:知っている 64% ↑22%)



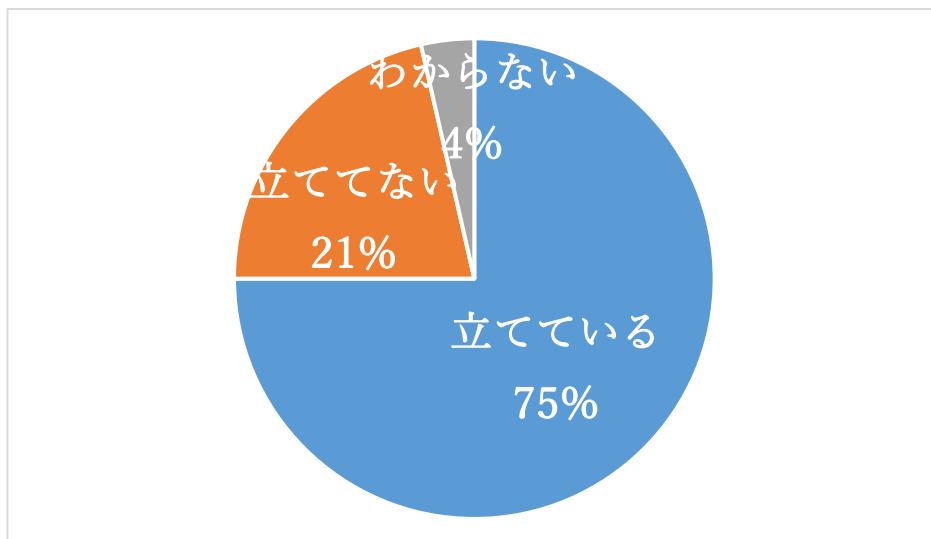
Q10 実際に「在宅避難」は可能だと思えますか。(R4：可能 58% ↓8%)



Q11 災害時個別支援計画を知っていますか。(R4：知っている 50% ↑25%)

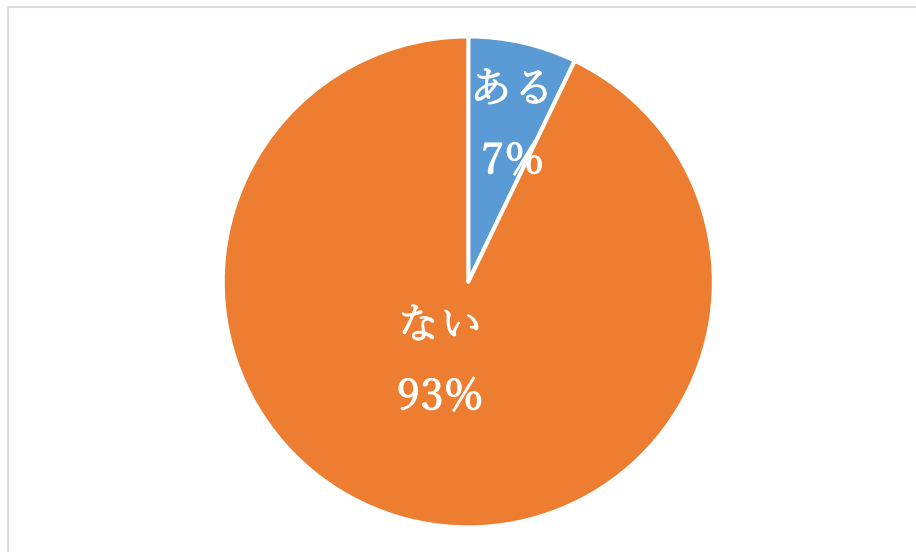


Q12 災害時個別支援計画を立てていますか。(R4：立てている 42% ↑33%)



Q13 災害時個別支援計画を基に避難訓練をしたことがありますか。

(R4：ある 4% ↑3%)



Q14 電源確保について、ご意見があればご記載ください。

<p>・在宅での電源確保は不安がある。介護5の病人を高齢の1人で対応するのは厳しい。</p>
<p>家で充電ができない場合、どこへ行ったら充電させてもらえるのか知りたい。 ●たとえば、どこか大きな病院とか？</p>
<p>・24時間呼吸器を使用しているので、長時間の停電を想定すると、ポータブル電源1台では不安になります。また、この度、配布していただいたポータブル電源は半永久的に使用できず、数年経過したら新たなものに交換しなければならないと伺っています。 吸引器の内蔵バッテリーのように、素人でも簡単に部品交換すれば、長期間使用できる機械になれば良いと思います。</p>
<p>・電源確保に関連して、酸素運搬の車は緊急車両ではないため、閉鎖された道路を通行できない事で、酸素を使う方は高齢者も含めてかなり困る事になりそうと予測する。 我が家は液化酸素タイプにして電源なくても大丈夫なようにしている。 ・ソーラーパネルでの充電はかなりの時間と天候左右があるため、皆さん1台配布されて安心とはいかない事、しっかり知る必要があると思う。実際、ベランダで試してみたが、本当に直射日光でないと難しい。</p>
<p>・災害時、すぐには行政に頼れない事も理解しているが、これらのQRコードで身元などもわかるなら、災害時の安否確認などにもこのシステムが使えるのではないですか？また在宅避難中の状況や要望などのヒヤリングなどにも活かそうと思うが。区の要支援者への対策がほとんど進んでいないので、かなり危機感あります。</p>
<p>・福祉車両が古くなり、AC電源を備えたイーパワーの福祉車両に買いかえたが、値段がとても高くなっており驚いた。家族が運転する場合も購入時に少しでも補助があると助かる。</p>
<p>・まず、車のガソリンはいつも満タンなことを確認しています。ポータブル電源もバッテリーの確認はしています。</p>

<p>ただそれでも医療的ケア関連機器のバッテリーが足りなくなる場合がでてくるのが心配です。</p> <p>避難所へ行くのが難しい医療的ケア児者のために 公的な場所で、電源の確保ができる場所を準備していただくと安心です。</p>
<p>・一般の方より優先度をあげてほしい。</p> <p>携帯等の充電より、我々にとってはすごく大事なこと。災害時、電源＝命といっても過言でない。</p>
<p>・医療機器だけでなく、ペーストにするための食事用機器や食べ物を温める機器や体温調整が自分でうまくできないので体温維持のための機器等生活に必要なための電源確保も必要。今回のポータブル電源は 500w が最大で少なく、冷たい食べ物では内臓を弱らせてしまうので、食べ物を温める電子レンジや湯沸し器等を使いたいが 1200 から 1300w ぐらいの機器が使用できないと生活に支障があり、体調をすぐに壊してしまうので、もっと最大出力の出る電源をお願いします。</p>
<p>・マンションの自治会に加入していますが、自治会に対して少しでも電源確保の助成とかあるといいな、と思いました。</p>
<p>・生命を維持するのに必要な医療機器は、重要な順に呼吸器、吸引器、加湿器ですが、季節によってはクーラーも必須です。</p> <p>不確実要素があり、実際どれだけの時間非常用電源だけで在宅避難できるのか、不安は拭えません。また、ソーラーパネルでは曇りの日の充電は不能ですので、地域に医療機器の充電ができるスポットを設けていただきたいです。</p>
<p>・今回いただいたポータブル電源は、ソーラーパネルも付いているので、長時間の発電にも耐えられると思います。大変助かりました。別途、ガスボンベ式の発電機も備えていますが、ガスボンベはストック量に限界があるので、ソーラーパネルの方が有り難いです</p>
<p>・今回、ソーラーパネル付きで高額のポータブル電源が配布いただけたことは大変ありがたく、自然災害が随所で発生している中、停電に係る安心感を得ることが出来ました。</p>
<p>・この度はポータブル電源とソーラーパネルを提供していただき、停電時の不安材料が軽減できたこと、とてもありがたく思っています。</p> <p>一方で、今のような猛暑の時期に災害が発生し停電してしまった場合、エアコンが使用できないため在宅避難は難しいと予想されます。</p> <p>おそらく病院に入院することも叶わないと思いますので、せめて非常用電源のある施設を、交代制でもよいので使わせていただけないでしょうか。夏以外は在宅避難で頑張ろうと思っていますので、夏場だけは避難場所を確保していただくか、それが難しい場合は情報提供(〇〇ホテルに避難可など)だけでもお願いできればと思います。</p>
<p>・医療機器用にはポータブル電源があり、大変な安心材料とさせていただきます。</p> <p>でも、停電によってエアコンが使えなくなった場合は、体温調節が難しいため、在宅避難はとても困難だと心配しています。</p>
<p>・区立の生活介護施設(千歳台福祉園)に通所している。第二次(福祉)避難所になっているが、そこにはポータブル電源が備えてないとのこと。自宅避難にしたいとも、ボロ屋が崩壊してしまったら福祉避難所に行くしかない。頂いた物は重くて持って逃げられない。是非福祉避難所にもポータブル電源を配備して欲しい。</p>
<p>・もう1台ポータブル電源を配給していただくと助かります。</p>
<p>・2回目は、車から電源を取る機器をご支給いただきましたが、自分で配線する方法がわからず、活用できていません</p>
<p>・普段使っている医療機器と配布されたバッテリーのテストをしてみたい。</p>

Q15 その他、医療的ケアを受けながら生活している中で困っていることやこういうサービスがあればもっと便利になる等の希望、要望がありましたらご記載をお願いします。

～医療的ケア児・家族からの意見～

<p>・災害時は基本在宅避難を考えていますが、火事や天候不良で電気が確保できなかったなど、どうしても自宅にはいられないときに、医療的ケア児を連れて行ける場所を明確にして欲しいです。</p> <p>・親が家を離れる予定があるときは、事前に予定をきちんと確認してレスパイトなど利用していますが、トラブルなどでどうしても至急、子どもを見ていて欲しいときをお願いできる場所やサービスを見つけられたら助かります。</p>
<p>・各種手当の所得税</p>
<p>・移動支援、学校送迎などの付き添い看護師さんが増えるとありがたいと思っています。</p>
<p>1.書類のデジタル化</p> <p>医療費助成、高額障害福祉サービス等給付費及び高額障害児通所給付費、手当などの書類手続きの早期デジタル化を実現できると区役所側と家族の双方にとって負担が減ると思います。具体的には、区役所側は送付用の切手と封筒費用、返信用の封筒費用の削減などできます。</p> <p>2.福祉タクシー券のデジタル化</p> <p>スマホ管理にできると持ち歩きせず済むようになり利便性が高まります。デジタル化により区役所とタクシー会社の管理コスト削減に繋がります。スマホを持たないシニア層もいるので紙の券廃止はできないかもしれませんが 50-70 代くらいまではスマホに十分対応できるのではないのでしょうか。推進にあたっては、タクシー側が対応ツールを準備しやすいようツール導入の補助金など制度とセットで考えるのがよいと思います。</p> <p>3.避難訓練・災害訓練イベント</p> <p>医療的ケア児向けの災害訓練イベントを企画して下さい。他都道府県でも実施事例がでてきています。長野県社会福祉協議会がトヨタ自動車と連携して取り組んだ災害を想定した EV 車両の活用の仕方は有効な取り組みと感じました。ぜひ参考にされて下さい。</p> <p>4.医療的ケア児のリスト化と地域住民への周知対応</p> <p>近隣住民に存在を認知頂けるといざという時の対応がスムーズです。一方、当事者から近隣住民に事前に説明する機会はなかなかありません。リスト整備を行い、医療的ケア児が住む家の近隣住民への説明を区役所が仲介してあげるシステムがあると非常に有効です。</p>
<p>・急な入院や外来の時に小さい兄弟姉妹を預かってくれるサービスがあると助かります。成育のひまわり復活が助かります。</p>

～医療的ケア者・家族からの意見～

<p>・訪問看護師さんをお願いできる時間が最長 2 時間と短く、諸用がこなせないことがあります。世田谷区のレスパイトを使いたいと思っても、看護師さんの勤務状況は、ギリギリ状態のようで、気軽にお願ひできません。</p>
<p>・在レスが就労可能になった事で、20 年ぶりに働けるようになりありがたいが、週で計算すると 1 週間で 4 時間程度。その程度の勤務でオツケーな仕事場はなかなかない。</p> <p>また就労でほぼ在レス利用すると、きょうだいの行事や自分のレスパイトでの利用までまわらない。</p> <p>就労者には時間の拡大が欲しい</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・事務的な手続きが区の窓口まで行かなくても済むように DX 促進をお願いしたい ・災害時、在宅避難が継続できるような対策を立てて欲しい。医療的ケア児者が多い世田谷区で、次々と入院ができる訳もなく、普段の慣れたケアでないと命の危機もある。在宅避難者にも支援物資が届くとか、電源は自宅以外ならどこへ行けば良いかなどの案内など、事が起きる前に対策をたてておいて欲しい。 ・世田谷区にも医療的ケア児者のための災害時ハンドブックを作成して欲しい。いざという時に見れるような詳細な物。他県の自治体ではすでに作成されています。
<ul style="list-style-type: none"> ・在宅レスパイトでナースに留守番を頼んでいるが、依頼が集中すると利用出来ない場合もあり、人探しに苦労する。緊急介護人で知り合いナースに依頼して、なんとか対応したりしているが、時給が安いのが気がかり。 ・また、重度訪問ヘルパーさんに仕事の見守りを頼んでいるが、痰吸引加算や処遇改善加算がつかないため、通常の重度訪問で入っていた時よりもヘルパーさんの時給が下がってしまい申し訳ない。加算がつかるとよい。
<ul style="list-style-type: none"> ・吸引のカテーテルの消毒に使うアルコールなどの消毒薬の購入助成金制度があると助かります。
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の折は アルコール除菌剤の配布、また、今回は ポータブル電源の配布など、医療的ケア児者を介護している家族として、このように手を差し伸べていただけることは 本当に嬉しく 忘れられてないんだと、とても心強く感じました。 ・災害時のことではありませんが、今困っていることとして、世田谷区には大きな小児病院があり、医療的ケア児もたくさん診ていただいていると思います。ただ成人移行として、20 歳前後になると 他の病院へ移らなければならず、その移行先がなかなか見つからない現状があります。体が小さいから無理、側弯があるから難しく診れる医師がいない、など いろいろな理由から なかなか決まらない。育った地域で、成人後も安心して生活できるよう整備されていくことを願っています。
<ul style="list-style-type: none"> ・車椅子生活者ですが、外出時、道路舗装がされていない道があり、とてもでないが車椅子では通行出来ません。舗装してもらいたい、何故かそこだけ舗装されていません。その道を避けるために 3 倍の遠回りをしなければならない→該当道路は千歳丘高校裏の道路です。
<ul style="list-style-type: none"> ・いつもありがとうございます。医療ケアがあっても安心してお願いできる短期入所先が区内にあると有難いです。いろいろ難しいとは思いますが継続してよろしく願います。
<ul style="list-style-type: none"> ・昨年夏場の入浴が 2 回になり、大変助かっています。本当にありがとうございます。入浴は在宅医療を受ける患者にとって、一番大切なリハビリだと感じています。訪問入浴の予算や人員確保が大変であれば、区内にある病院や施設に、入浴に特化したリハビリテーション通所を認めていただく、というような制度改正はできないものかと願っています。 ・また、この地域(大蔵)には医療ケアが必要な人が通所できる施設がほとんどありません。医療型のデイケアがあるといいと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・ソーラーパネルの常時設置に係る補助金の給付
<ul style="list-style-type: none"> ・世田谷区内に呼吸器利用者も利用できる短期入所施設を作っていただきたいです。「東京リハビリテーション世田谷」にはとても期待していたのですが、実際には呼吸器使用者は利用できません。できる限り在宅看護をするつもりですが、自分には持病があり体調不良の際は日常生活もままならないことがあります。これまでは短期入所を利用せず気力で乗り切ってきましたが、自分も年をとり気力だけではどうにもならなくなってきました。車で1時間以上かかる都立の療育センターへの移動は、親子共に体力を消耗してしまいます。世田谷区内に作っていただけたらとても助かります。
<ul style="list-style-type: none"> ・体温調節に役立つ製品(電気毛布、冷風機など)で、ポータブル電源の容量の範囲で使えるものが

あったら、その製品の使い方や使用可能な時間などをご紹介いただけると、ありがたいです。

・喀痰吸引研修 3 号の講習を区独自で頻回に行って欲しい